

感謝の会 千葉県自閉症協会A S Cのこれまでの歩み

平成20年5月25日
千葉県自閉症協会 理事 古屋 道夫

はじめに、本日お集まりくださいました皆様をはじめ、これまでお関わりくださいました方々に厚くお礼を申し上げます。

この会に長く関わっているということで、この会の歩みを説明するようにとのこと、光栄のことであり、説明の機会をお与えてくださいましたことに感謝いたします。

千葉県自閉症協会A S Cとその前身の親の会、千葉県支部のこれまで37年の歩みを、本日配布いたしました「みち」73号の表に沿って概要をご説明させていただきます。どうかこの表が 頁から 頁にございますのでお開きください。一応10年ごとにⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ期に分け、年毎に関わった主な役員名、取組み、会報の記事を列記しました。

第Ⅰ期は、S47年からS56年で、親の会が歩み出し、親の会から連合会に進展した時期です。

この時期のことを順次ご説明いたします。

S47年 佐藤栄作内閣から田中角栄内閣に代わった年です。それまで千葉県に住みながら、個人で、先行していた東京都自閉症児親の会に参加していた親たちが集まり、最初の例会を7/2、県精神衛生センターで開催しました。会員数51名でした。現在、千葉県自閉症協会A S Cの会員は1,024名で会員数は20倍に増えました。9/3 柏市児童相談所で親・関係者が集まり、現状や要望について話し合いました。本日、ご列席いただいたお二人、阿部正勝先生は、当時、千葉県義務教育課特殊教育係副主査でした。渡辺直幹先生は当時、柏市立十余二学園園長でしたが、話合にお加わりいただきました。それ以来、37年に渡りご支援いただいております。私も此の時が会への関わりの最初でした。この時のことを、多くの記憶が薄れてゆく中、今でも思い出します。(注1)

S50年、参加者が増えると共に我孫子市、柏市、千葉市、習志野市、松戸市で地域毎の集まりを持ち、親の会が芽生えました。その後その他の地域に親の会が順次作られ、現在の千葉県下の17地区の自閉症協会の源流となりました。

S53年、その時点で作られた6つの親の会が集まり、千葉県自閉症児・者親の会連合会を結成しました。連合会とし、これまでの代表幹事ではなく会長を置き、部局体制を整備しました。

S54年 自閉症児を児童福祉法の対象にするとの厚生省省令が出され、親の会がS41年以来要望してきたことのひとつがやっと実現しました。その後、現在まで亀の歩みに見えますが、順次、自閉症支援が整備されてきています。

S56年 設立10周年を記念して、「伸びよわが子ら」第1号を7000冊発行し、会員・関係者・社会の人たちに大きな刺激となり会発展の基礎が確立しました。この年施設部会が発足しました。この年は国際障害者年10年の最初の年で、障害者支援のあり方が変わってゆく年でもありました。

第Ⅱ期は、S57年からH3年です、この期は会活動の上昇期です。

千葉市にて全国大会と研究大会を開催し意気が大いに上がりました、これを機にその後この期間に研究大会を3回開催しました。施設部会が発展して立ち上げた「菜の花会」が、「しもふさ学園」を開設し、県下の自閉症支援の拠点のひとつとなりました。親の会連合会から日本自閉症協会千葉県支部になりました。この時期のことを順次ご説明いたします。

S57年 会報の名前を「みち」としました。この名前は、現在まで親しまれています。本日、配布したのは最新の73号で、これまで広報部を順次背負っていただいた方々の努力が偲べれます。

S58年 8/7 常陸宮殿下ご夫妻をお迎えし、第8回自閉症児・者親の会全国大会(千葉大会) —テーマ「みちを求めて—を千葉市民会館で開催し、1000人近い人たちが参画・参加しました。併せて、前日の8/6、第1回千葉県自閉症研究大会を千葉県労働者福祉センターで開催しました。この研究大会の内容を続「伸びよわが子ら」として発刊しました。会員の総力を挙げて取り組んだ両大会により、本会の存在を広くアピールできました。(注2)

S59 年 施設部会より独立し、「菜の花会」が施設建設に本格的に取り組み始めました。
S60 年 第2回千葉県自閉症研究大会を、「自閉症児者の自立にとって何が必要か」をテーマとして開催しました。
S62 年 第3回千葉県自閉症研究大会を「自閉症児・者のあしたのために」をテーマとして開催しました。
S63 年 社会福祉法人 菜の花会が運営する知的障害者入所施設「しもふさ学園」が開園しました。
平成元年 社団法人日本自閉症協会が自閉症児・者親の会全国協議会を母体として設立され、専門家、関係者も参加する体制となりました。そして、千葉県自閉症児・者親の会連合会は日本自閉症協会千葉県支部となりました。
H2 年 第4回千葉県自閉症研究大会を「地域の中に生きるには」をテーマとして開催しました。

第Ⅲ期はH4からH13で、千葉県支部時代です。

この期は苦節10年とも思える時期です、自閉症に特化した支援を求めて各方面に働きかけましたが、成果不十分でした。しかし、地道に活動が続けてきたことにより、その中で新しい人材が参画し始めました。この時期のことを順次ご説明いたします。

H4 年 会設立20周年記念誌「伸びよわが子ら」第3号を発刊しました。
H5 年 第5回千葉県自閉症研究大会を、「TEEACCH プログラム「に学ぶ」をテーマとして開催しました。
H8 年 第6回千葉県自閉症研究大会を、「自閉症への理解を求めて」をテーマとして開催しました。
H11 年 第7回千葉県自閉症研究大会を、「教育は自閉症を変える」をテーマとして開催しました。そして、この内容を記録した「伸びよわが子ら」第4号「教育は自閉症を変える」を翌年発刊しました。
H12 年 これまで自閉症支援というと、知的障害を伴う自閉症の人が対象でしたが、知的障害を伴わない高機能自閉症・アスペルガー症候群の人が多くいて、この人たちの支援も必要だことが認識されてきました。この高機能自閉症・アスペルガー症候群の人たちへの支援の「高機能勉強会」が発足しました、H14年にWi111クラブと名称を改め、会員登録制の勉強会として再スタートし、現在も活発な活動を行なっています。
この年、本支部のホームページを開局し、多くの情報を広く、早く提供して現在に至っています。

第Ⅳ期はH14年からH20年です

現在に至るこの時期は、自閉症支援の新時代の到来と考えられます。即ち、日本自閉症協会千葉県支部から千葉県自閉症協会へと脱皮し、発達障害者支援法が施行され、千葉県発達障害者支援センターCASが設立されました。活動は県及び市レベルの行政、関連団体と協働して活発に行なわれ、多方面での自閉症支援が構築、充実されつつあります、しかし、課題は山積しています。

この時期のことを順次ご説明いたします。

H14 年 2/4、本日ご列席くださいました堂本暁子千葉県知事との面談が実現し、要望書を提出しました。その後、要望した千葉県自閉症支援センターが認可され、千葉県自閉症支援センターCASが事業を開始しました。そして、これまで個人宅にあった本会事務所を千葉市内に開設できました。
H15 年 特別講演会「英国の行政からみた自閉症支援」を開催し、「伸びよわが子」第5号として発刊しました。
H16 年 発達障害者支援法成立のために、日本自閉症協会本部、各支部と共に取り組み、千葉県では県選出の全国会議員に面談又は文書・電話により協力要請し、協力の返事をいただきました、そして12/3に成立し。翌年17年4/1施行されました。この法律の果実はまだ充分ではありませんが、これまでのお情け的支援から権利・義務としての支援が約束されました。(注3)
H17 年 全国でも画期的な千葉県受診サポート手帳が発行されましたが、この発行には大屋支部長をはじめ本支部も協力しました。この手帳は適切な診察を受けるために役に立っています。
H18 年 日本自閉症協会の組織改編により、日本自閉症協会千葉県支部を脱皮・独立して千葉県自閉症協会を設立しました。また、本会も成立に協力した千葉県障害者条例「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」が10月成立しました。この中で自閉症は障害として定義された、発達障害のひとつとして位置づけられました。翌19年7月に施行され、全国で初めての条例であり、この条例の定着により自閉症の人が地域に受け入れられることが期待出来ます。この条例の精神を忘れず、活用することにより、生きて役に立つものになります。

(注4)

H19年 成年壮年自閉症問題研究会が発足しました。加齢した自閉症の人たちへの支援の構築は急務であると共に、多くの会員の心に掛かる課題でもあり多方面から検討を行ないます。

H20年 本年、国連が4月2日を自閉症啓発デーとして制定しました。世界には3500万人の自閉症の人がいるとされ、自閉症の人への支援は人類的課題であることが認識されました。

ご静聴ありがとうございました。

私はこれからも、体と心が働く限り皆様と共に頑張りたい、何卒よろしくお願い申し上げます。

注記 この注記は個人的な体験や思いですのでお読みいただければ幸いです。

注1：当時、柏児相は東武野田線の新柏駅を見下ろす丘にありました。イベントで、現在はS学園にいて「さおり織り」の素晴らしい作品を編んでおられますIさんが、まだ10歳代後半で、白いドレスを着て、ピアノを弾いてくださるのをまぶしく拝見しました。そこにいらした、今は亡きIさんのおとうさんの願いが叶ったのでしょうか。

注2：常陸宮様をお迎えしましたことにより、厚生省、文部省の担当のトップ、沼田千葉県知事をはじめ、招待しても来てくださらない方々に多数参加いただきました。しかし、成田空港反対過激派の活動を警戒し厳重警備の中で行なわれました。イベントが遅れて、控え室から降りてきてしまった宮様以下、壇上に上がる要人を、20分くらい楽屋裏でお待たせてしまったこと、そのほか幾つかの失敗がありましたが、懐かしい思い出です。

注3：県選出の国会議員は26名いましたが、その内一人は自閉症、他の一人はADHDの子どもの親でした。無論、協力の約束をしていただけましたが、率先されたようではなく、私たちが働きかけたからでした。なんといっても動くことが必要です。12/3 参議院の厚生労働委員会で採決するのを傍聴できましたが、可決した時は、共に傍聴した親たちと手を取り合って喜びました。

注4：この条例が成立するにつきましても、保守的な議員の強い反対があり、一時挫折の危機がありました。堂本暁子千葉県知事の強い信念、県の担当官の日夜を問わずのお働き、民間の関係者の積極的な協力があり実現しました。本会会員もいろいろな形で成立に協力しました。

私たちの会の歴史 第Ⅰ期—親の会発足から親の会連合会に—

1972年、51名が参加し県の会が発足、その後各地域に地区会が作られ連合体となる、10年目、「伸びよわが子ら」第1号を7000冊発行し、発展の基礎確立。

年 次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
昭 和	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56
西 暦	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981
代表・会長	幹事による合議制			(代表) 上田 和男	同左	同左	(以後)会長 山本香葉子	山本香葉子	博山 弘夫	博山 弘夫
副会長	幹事による合議制			同左	同左	同左	博山 弘夫	博山 弘夫	谷口 昭夫 小林 礼子	谷口 昭夫 小林 礼子
事務局長	上田 和男	上田 和男	上田 和男	上田 和男	上田 和男	上田 和男	谷口 昭夫	上田 和男	山本香葉子	小林 礼子
広報部長	上田 和男	上田 和男	上田 和男	上田 和男	上田 和男	上田 和男	古屋 道夫	古屋 道夫	古屋 道夫	古屋 道夫
施設部会									上田 和男	上田 和男
主な出来事及び組織動向	東京都の会から独立、最初の例会を7/15、県精神衛生センターで開催、会員数51名			千葉県、習志野市、柏市、我孫子市、松戸市に地域毎に会が作られる			千葉県自閉症児者親の会連合会となり、各地域の会は〇〇〇親の会と名乗る			「伸びよわが子ら」第1号—自閉症ハンドブック発刊、市川市親の会発足、施設部会発足
会報	1(号、以下略):「お知らせ」との題でガリ版	3:1月、3月例会報告、会員紹介		4:全国大会報告、内閣に自閉症対策について質問		6:総会、講演(武沢静雄:佐々木 正美)	7:幹事会、講演(渡辺 直幹)	9:全国大会報告、講演録(竹内 嘉巳)	10:県社会部及び、教育委員会との話合	13:新年の挨拶、年長自閉症者進路対策懇談会記録
会報	2:会員と県関係者との話し合い			5:総会、地区報告、講演録(宮本茂雄)、県との交渉			8:総会、講演録(石井 哲夫)	9	11:総会、伸会長挨拶、講演録(中野良顕)	14:実態意識調査集計報告、全国協議会研修会報告
会報									12:自閉症問題解説「親はつらいよ」	15:自閉症問題国会で審議内容報告
会報										16:総会、講演録(鈴木 栄)、施設部会趣旨と計画

私たちの会の歴史 第Ⅱ期—連合会から協会支部に—

活動の上昇期、千葉市にて全国大会、研究大会を4回開催する。自閉症支援の拠点となる「しもふさ学園」を会の有志が設立。

年 次	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
昭和・平成	57	58	59	60	61	62	63	1	2	3
西 暦	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91
会長・支部長	古屋 道夫	古屋 道夫	古屋 道夫	古屋 道夫	小林 礼子	小林 礼子	木元 六郎	木元 六郎	木元 六郎	木元 六郎
副会長又は 副支部長	小林 礼子 谷口 昭夫 山田 洋子	小林 礼子 谷口 昭夫 山田 洋子	小林 礼子 木元 六郎	小林 礼子 木元 六郎	木元 六郎 山本 和子 坂本 秀美	木元 六郎 山本 和子 坂本 秀美	山本 和子 坂本 秀美 矢作 貞代	山本 和子 坂本 秀美 矢作 貞代	山本 和子 坂本 秀美 矢作 貞代	山本 和子 坂本 秀美 矢作 貞代
事務局長	小林 礼子	小林 礼子	小林 礼子	小林 礼子	矢作 貞代	矢作 貞代	矢作 貞代	矢作 貞代	矢作 貞代	矢作 貞代
教育研修			田川 洋子	田川 洋子	古屋 道夫	古屋 道夫	古屋 道夫	佐藤 幸雄	佐藤 幸雄	佐藤 幸雄
広報部長	小原 宏	小原 宏	坂本 秀美	坂本 秀美	坂本 秀美	坂本 秀美	坂本 秀美	坂本 秀美	坂本 秀美	太田 紀子
労働・福祉部長	博山 葉子	博山 葉子	木元 六郎	木元 六郎	木元 六郎	木元 六郎	木元 六郎	木元 六郎	藤本 日出夫	藤本 日出夫
施設部長	上田 和男	上田 和男	上田 和男	上田 和男	上田 和男	上田 和男	山本 和子	山本 和子	山本 和子	山本 和子
主な出来事及 び組織動向	全国大会準備、テーマ「みちを求めて」、会報の名称「みち」とする	第8回自閉症児・者親の会全国大会in千葉、第1回千葉県自閉症研究大会、続「伸びよわが子ら」研究大会記録集発刊	施設部会より「菜の花会」独立、	第2回千葉県自閉症研究大会「自閉症児者の自立にとって何が必要か」	地区会10、市川市、市原市、君津郡市、千葉市、東葛地区、東総地区、習志野市、船橋市、松戸市、八千代市	第3回千葉県自閉症研究大会「自閉症児者のあしたのために・・・」	しもふさ学園開園	日本自閉症協会設立、親の会連合会から協会支部に	第4回千葉県自閉症研究大会「地域の中に生きるには」(7/22)	
会報主要記事	17:「伸びよわが子ら」反響、博山会長追悼	20:実態意識調査、	22:総会(八千代市)、講演録(阿部秀雄)	24:第2回研究大会要綱、第4回実態意識調査	27:総会、講演録(早川勝司)	29:第3回研究大会案内、第5回実態意識調査	32:第3回研究大会まとめ、	35:第6回実態意識調査、映画「レインマン」感想	37:日本自閉症協会発足にあたって	41:第4回研究大会報告
	18:総会、教育シンポジウム	21:第8回全国大会in千葉終わる	23:第2回千葉県自閉症研究大会に向かって、	25:第2回研究大会要綱、	28:全国協議会法人化について	30:第3回研究大会案内	33:総会、就労懇談会	36:総会、講演録(森山幹夫)	38:第4回研究大会案内、	42:組織検討委員会、親子の旅
	19:第8回全国大会in千葉に向かって、			26:第2回研究大会成功裏に終わる		31:総会、講演(姜 春子)	34:自閉症協会の設立を		39:第4回研究大会案内、40:総会、講演(永井 洋子)	43:総会、講演(大野 智也)

私たちの会の歴史 第Ⅲ期—千葉県支部時代—

苦節10年、自閉症に特化した支援を求めて各方面に働きかけるが成果不十分、その中で新しい人材が参画し始める。

年 次	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
平 成	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
西 暦	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001
支部長	古屋 道夫	古屋 道夫	古屋 道夫	古屋 道夫	古屋 道夫	古屋 道夫	古屋 道夫	古屋 道夫	古屋 道夫	古屋 道夫
副支部長	坂本 秀美 矢作 貞代 北原 郁子	矢作 貞代 北原 郁子	矢作 貞代 北原 郁子	矢作 貞代 北原 郁子	矢作 貞代 北原 郁子	矢作 貞代 北原 郁子	矢作 貞代 北原 郁子	矢作 貞代 北原 郁子	矢作 貞代 角口 早苗 坂本 秀美 太田 紀子 大屋 滋	矢作 貞代 角口 早苗 坂本 秀美 太田 紀子 大屋 滋
事務局長	矢作 貞代	矢作 貞代	矢作 貞代	矢作 貞代	矢作 貞代	矢作 貞代	矢作 貞代	矢作 貞代	矢作 貞代	矢作 貞代
広報部長	木村 暉子	木村 暉子	木村 暉子	木村 暉子	木村 暉子	木村 暉子	木村 暉子	木村 暉子	木村 暉子	木村 暉子
教育研修	角口 早苗	角口 早苗	古屋 道夫	古屋 道夫	青山 春美	青山 春美	青山 春美	青山 春美	大屋 滋	大屋 滋
労働・福祉	土岐 邦成	土岐 邦成	角口 早苗	角口 早苗	角口 早苗	角口 早苗	角口 早苗	角口 早苗	角口 早苗	角口 早苗
施設	山本 和子	山本 和子	山本 和子	山本 和子	山本 和子	山本 和子	山本 和子	山本 和子	山本 和子	山本 和子
事業部		古屋 道夫	古屋 道夫	古屋 道夫	古屋 道夫	古屋 道夫	古屋 道夫	古屋 道夫	松井 宏昭	松井 宏昭
組織整備			土岐 邦成	土岐 邦成	坂本 秀美	坂本 秀美	坂本 秀美	坂本 秀美	坂本 秀美	坂本 秀美
主な出来事及び組織動向	会20周年、「伸びよわが子ら」第3号—20周年記念誌 発行	第5回千葉県自閉症研究大会「TEACCHプログラムに学ぶ」			第6回千葉県自閉症研究大会「自閉症への理解を求めて」			第7回千葉県自閉症研究大会「教育は自閉症を変える」、支部ホームページ開始	「伸びよわが子ら」第4号—教育は自閉症を変える 発行	H12年より高機能・アスペルガー自閉症支援の「星の子クラブ」発足、後にWillクラブに発展
会報主要記事	44:総会、20周年記念式典、「伸びよわが子」3号	46:第5回研究大会案内	48:関係者懇談会、講演録(斉藤茂)	50:総会、講演録(阿部秀雄、渡辺悦雄)	51:第6回研究大会案内、講演録(川村 宣輝)	53:第6回研究大会まとめ、自閉症連絡協議会	55:10周年、親の会から協会に、講演録(梅永雄二)	57:第7回研究大会案内、講演録(河島 淳子、中野良顕)	59:第7回研究大会報告、講演録(明石 洋子)	61:教育研修部の取り組み、星の子、ML
	45:第5回研究大会案内、講演録(藤尾 眞子)	47:総会、講演録(丸山博)	49:総会、講演録(柏女霊峰)、顧問会		52:第6回研究大会案内	54:総会、講演録(阿部叔子、青山春美、山根美江子)	56:総会、講演録(安部陽子)	58:総会、第7回研究大会案内	60:総会、講演録(堀光子:坂井聡)	61:総会、講演録(牧野賢一)、堂本知事要望書

私たちの会の歴史 第Ⅳ期—支部から千葉県自閉症協会に—

自閉症支援の新時代到来、発達障害者支援法施行、CAS設立、県との協働大きく前進。

年次	31	32	33	34	35	36	37	38	39
平成	14	15	16	17	18	19	20	21	22
西暦	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
支部長・会長	大屋 滋	大屋 滋	大屋 滋	大屋 滋	大屋 滋	大屋 滋	大屋 滋		
副支部長	大川 譲二 石山 祐子 松井 宏昭 角口 早苗	大川 譲二 石山 祐子 松井 宏昭 角口 早苗	佐藤 彰一 坂本 秀美 野澤 武 井原 一夫 白水 幹久	佐藤 彰一 井原 一夫 白水 幹久 竹蓋 伸六	井原 一夫 白水 幹久 竹蓋 伸六 坂本 秀美	白水 幹久 竹蓋 伸六	白水 幹久 竹蓋 伸六		
事務局長	古屋 道夫	古屋 道夫	古屋 道夫	北尾 敏明	北尾 敏明	北尾 敏明	北尾 敏明		
総務部長	矢作 貞代	矢作 貞代	矢作 貞代	矢作 貞代	矢作 貞代	矢作 貞代	矢作 貞代		
広報部長	朝倉 潤一	朝倉 潤一	朝倉 潤一	朝倉 潤一	朝倉 潤一	朝倉 潤一	朝倉 潤一		
事業部	坂本 秀美	坂本 秀美	北尾 敏明	野澤 武	野澤 武	野澤 武	野澤 武		
Willクラブ	坂本 秀美	坂本 秀美		坂本 秀美	坂本 秀美	坂本 秀美	坂本 秀美		
主な出来事及び組織動向	堂本 暁子千葉県知事との面談、千葉県自閉症センターCAS事業開始、支部事務所開設	特別講演会「英国の行政からみた自閉症支援」を開催し、「伸びよわが子」第5号として発刊	発達障害者支援法成立のため、県選出の全部の国会議員に面談又は電話・文書により協力要請し、12月成立	受診サポート手帳発行	千葉県自閉症協会設立、千葉県障害者条例成立	成年壮年自閉症問題研究会発足	国連で4月2日を自閉症啓発デーに制定		
会報主要記事	63:知事面談実現、熱気球搭乗体験記、講演録(島田律子)	65:支部事務所開設、CAS、Willクラブ紹介、講演録(田中 康雄)	67:自閉症サポートセンター、コスモスの花紹介、講演録(佐藤 彰一)	69:受診サポート手帳、講演録(小島靖子)		72:支部及び千葉県自閉症協会(ASC)総会、障害者条例、講演録(伊藤政之)			
	64:総会、大屋支部長挨拶、県への要望書、講演録(戸部 けいこ)	66:総会、特別支援教育プロ、	68:総会、発達障害者支援法成立に寄せて、	70:総会、講演録(柏女霊峰)、衆議院選挙候補者への公開質問、					